

資 料

健康管理に特別な配慮を必要とする子供の支援者間連携 — 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成・活用を通して —

笠原 芳 隆*・大庭 重 治*

1. はじめに

「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議，2003）（以下，最終報告）によると，特別支援教育とは，「従来の特殊教育の対象の障害だけでなく，LD，ADHD，高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて，その一人一人の教育的ニーズを把握して，その持てる力を高め，生活や学習上の困難を改善又は克服するために，適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである」とされている。すなわち特別支援教育は，障害のある児童生徒（以下，当該児童生徒）一人一人の実態に応じて個別に用意される教育ともいえる。

この一人一人に応じた特別支援教育を実現するために，最終報告では，「障害のある子どもを生涯にわたって支援する観点から，一人一人のニーズを把握して，関係者・機関の連携による適切な教育的支援を効果的に行うために，教育上の指導や支援を内容とする『個別の教育支援計画』の策定，実施，評価」を行い，「保護者を含む教育的支援を行う人・機関を連絡調整するキーパーソンである『特別支援教育コーディネーター』」を任命し，「地域における総合的な教育的支援のために有効な教育，福祉，医療等の関係機関の連携協力を確保するための『広域特別支援連携協議会等』を設置する」ことの重要性を示した。このことから，一人一人の実態に応じた特別支援教育を推進するに当たっては，担任教員にとどまらず，コーディネーター役の教員をはじめ，学校外の福祉や医療等の機関に所属する専門家（以下，外部専門家）と連携・協力して進めようと考えられていることが分かる。

当該児童生徒や家族（保護者）は，就学前から医療機関や福祉（療育・保育）機関等とかわりを持っていることが多く，そこでの医療情報や療育・保育の内容を就学後の教育に生かすことは重要である。また，学校卒業後を見すえ，学校在学中から福祉・労働機関等とかわりを持ち，教育の成果を生かしていく道筋をつくることも合わせて重要であるといえる。将来を見すえ，長期的な視点で当該児童生徒の教育内容や配慮を検討し，実践して行くには支援者間の連携・協力が欠かせない。特に健康管理に特別な配慮を必要としている児童生徒（以下，健康管理の必要な子供）の中には，本人や周囲の支援者が，疾患を的確に理解し，生活上の対応を継続していかないと生命にかかわるケースもあることから，支援者が健康管理の必要な子供の実態を共通理解する方策を立て，本人が安心・安全な環境下で適切な教育を受けられるようにしていかなければならない。

そのためには，外部専門家と，個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成と活用について十分な共通理解を図る必要がある。

2. 個別の教育支援計画の作成と活用

最終報告にあるように，学校外の専門機関のスタッフである外部専門家との連携・協働を進めるための方法として，個別の教育支援計画の作成と活用が挙げられる。平成14年に閣議決定された障害者基本計画に「障害のある子供の発達段階に応じて，関係機関が適切な役割分担の下に，一人一人のニーズに対応して適切な支援を行う計画（個別の支援計画）を策定すること」が示された。三室（2011）は，個別の教育支援計画はこの個別の支援計画の一部であり，学齢期を中心とした支援計画として重要な意味を持つと述べている。また，国立特殊教育総合研究所（2006）は，個別の支援計画と個別の教育支援計画との関係を概念図で表した（図1）。

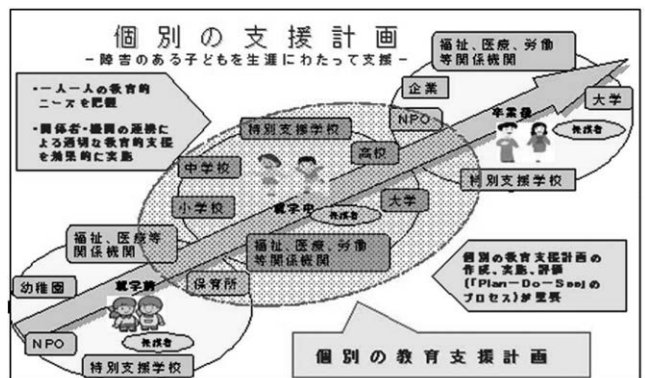


図1 個別の教育支援計画の位置付け
（国立特殊教育総合研究所（2006）より抜粋）

平成29年告示（現行）の小学校学習指導要領（文部科学省，2017a）及び中学校学習指導要領（文部科学省，2017b）並びに特別支援学校学習指導要領（文部科学省，2017c）等の総則には，障害のある児童（生徒）などへの指導の際には，「家庭，地域及び医療や福祉，保健，労働等との連携を図り，長期的な視点で児童（生徒）への教育的支援を行うために，個別の教育支援計画を作成し活用することに努めること」と記されている。特別支援学校だけでなく，小・中学校等にも，障害により特別な配慮を必要とする子供が在籍していれば，個別の教育支援計画を学校（教員）が主体となって作成し，有効に活用することが求められている。

* 上越教育大学

表1 障害のある本人や保護者にとっての利点

- ・指導や支援の目標、内容が明確になり、障害の見通しをもつことができる。
- ・学校だけでなく、医療、福祉、労働等の機関が共通の認識をもつことにつながり、連携した支援ができる。
- ・就学前から、小・中学校、高等学校、その後の教育や就労等に至るまで、生涯にわたる一貫した指導や支援を継続して受けることができる。

(矢口(2011)から作成)

表2 学校や担任にとっての利点

- ・作成に際して保護者の同意を得るに当たり、作成の目的や活用などについて保護者に説明することで、保護者と共通理解を図ることができる。
- ・幼児児童生徒の障害の程度や実態、これまで受けてきた支援の内容について、情報を得ることができる。
- ・将来を見通した支援を考えることができる。
- ・それぞれの機関が果たす役割を明確にすることができる。
- ・関係機関との連携を図ることで個に応じた指導の充実を図ることができる。

(矢口(2011)から作成)

矢口(2011)は、個別の教育支援計画作成の利点を、「本人や保護者」と「学校や担任」それぞれの立場から挙げており、その内容を表1及び表2に示した。

個別の教育支援計画を作成し、支援会議やケース会議を通して活用、すなわち必要な情報を共有することで、関係機関(関係者)の共通認識のもと、本人が生涯にわたる、また適時性のある一貫した指導や支援を受けられることになる。長崎県教育委員会(2017)による病弱特別支援学級における個別の教育支援計画の書式例を図2に示した。

ここには、本人の実態情報とともに、当該生徒が通院している医療センターの医師(主治医)等からの、治療や投薬、生活や学習上での留意点が記されることになっていることが分かる。

障害のある子供の教育支援の手引(文部科学省, 2021)には、病弱・身体虚弱児の教育的ニーズを整理するための観点として、①病弱・身体虚弱等の把握、②病弱・身体虚弱の子供に対する特別な指導内容、③病弱・身体虚弱の子供の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容が挙げられている。特別な指導内容や必要な支援内容は子供の実態に基づくものであり、病気等の状態や医療的ケアの実施状況等の情報を、個別の教育支援計画をツールとした支援会議等で、医療従事者(主治医)や保護者と共有しておくことが重要である。また、アレルギー疾患等をかかえる健康管理の必要な子供の場合、先述したとおり、一貫した適切な指導や支援を受けないと生命が危機に晒される事態になりかねない。例えば公益財団法人日本学校保健会(2019)は、学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドラインにおいて、アレルギー疾患に対するポイントとして、「各疾患の特徴をよく知ること」、「個々の児童生徒等の症状等の特徴を把握すること」、「症状が急速に変化するをを理解

し、日頃から緊急時の対応への準備を行っておくこと」を挙げている。個別の教育支援計画をツールとして活用しながら、当該児童生徒の症状の特徴や、平素からの、あるいは緊急時の対応について関係者が十分理解し、実際の支援場面でそれぞれ連携して役割を果たすことができるようにしておく必要がある。また、健康管理の必要な子供に適切に対応するための情報収集の機会(研修会等)についても、個別の教育支援計画に名を連ね、支援会議に参加している外部専門家から得ることが可能なことを理解しておく必要がある。

3. 個別の指導計画の作成と活用

学校内外で一貫した支援を行うためのツールとして個別の教育支援計画を挙げ、実際にそれを活用しながら、学校の教員と医療や福祉機関の外部専門家、そして家族(保護者)が当該児童生徒の支援者として連携・協力して支援に当たることの重要性を述べてきたが、連携・協力を通じて得た情報や支援策を在籍校の授業等に反映させていく際には、個別の指導計画の作成と活用が必要になる。

個別の指導計画の作成については、個別の教育支援計画と同様に各校種別の現行学習指導要領に示されている。小学校、中学校等の学習指導要領の総則に、「各教科等の指導に当たって、個々の児童(生徒)の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする」と記されている。特別支援学校学習指導要領には、やはり総則に小学校、中学校学習指導要領等と同様の表記が見られるが、加えて「自立活動」の章に「個別の指導計画の作成と内容の取扱い」として個別の指導計画作成上の配慮事項等が示されている。「自立活動」とは、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」ことを目標とした領域である。内容として、「健康の保持」に関する「生活のリズムや生活習慣の形成に関すること」、「病気の状態の理解と生活管理に関すること」、「健康状態の維持・改善に関すること」等が挙げられている(文部科学省, 2017c)。健康管理の必要な子どもをはじめ、当該児童生徒が自立を目指し、障害や疾患による困難を改善・克服するために、学校教育法施行規則において特別支援学校の教育課程に位置付けられた重要な領域である。

個別の教育支援計画作成例と同様に、長崎県教育委員会(2017)による病弱特別支援学級における個別の指導計画の書式例を図3に示した。

自立活動の指導目標として「自己の病状を理解し、体調管理を行う」ことなどが例示されているが、この目標を達成させるためには、図2に挙げた個別の教育支援計画の関係機関にある医療センターの医師(主治医)からの情報が重要になる。健康管理の必要な子供に対して学校内で活用する自立活動や各教科等の指導計画を立案する際にも、医師をはじめとする外部専門家の情報を得ることは欠かすことができない。支援者間連携による情報共有の内容を個別の指導計画上で可視化し、校内での一貫した指導を個別に進めるようにする必要がある。

なお、自立活動は小・中学校等の特別支援学級や通級による指導の教育課程にも、特別の教育課程として位置付け可能であ



個別の教育支援計画

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----|--|-----|--|------|--|------|--|-----|--|-----|--|----|--|----|--|-----|---------------------------------------------------------|-----|---------------------------------------------------------|
| 氏名 | 大村 太郎 | | 主な記載者 (本人との関係) | 〇〇 (担任) | 年 月 日作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本人に関する情報 | 願 | <本人> ・高校に進学したい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | い | <保護者> ・高校に進学してほしい。 ・自分の体調管理ができるようになってほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 主 | <学習上・生活上について> 得意なところ、好ましいところ | | 苦手なところ、改善したいところ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ・細かい作業が得意で、模型を作ることが得意である。 ・スポーツに関するニュースに詳しい。 ・学年相応の計算や漢字、英単語はできている。 ・本を読むことが好きである。 | | ・自分の体調よりも、したいことの方が優先し、つい、制限を越えて活動してしまうことがある。 ・校内での荷物の運搬等、他者に頼むことが出来ず、一人で運搬することがある。 ・入院していた時期があるため、学習していない単元がある。特に、数学と英語が苦手である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実 | <家庭での困難な点> ・うがいや手洗いは、声かけがないとしないことが多い。 ・宿題の内容が難しいと感じたときに、途中であきらめてしまうことがある。 ・自暴自棄になり、イライラして、母親に強い口調で暴言を吐くことがある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 態 | <検査結果> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>検査名</td> <td></td> <td>検査名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施機関</td> <td></td> <td>実施機関</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施日</td> <td></td> <td>実施日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結果</td> <td></td> <td>結果</td> <td></td> </tr> <tr> <td>資料等</td> <td><input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> <td>資料等</td> <td><input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し</td> </tr> </table> | | | | | 検査名 | | 検査名 | | 実施機関 | | 実施機関 | | 実施日 | | 実施日 | | 結果 | | 結果 | | 資料等 | <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し | 資料等 | <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し |
| 検査名 | | 検査名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実施機関 | | 実施機関 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実施日 | | 実施日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 結果 | | 結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資料等 | <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し | 資料等 | <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関係機関に関する情報 | 機関名 | 担当者 | 期間 | 主な支援内容・助言内容 等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 〇〇医療センター | 〇〇医師 | H27年7月より月に1回通院 | 治療、投薬、生活や学習上での留意点等 (H27.7.10~7.24 入院) (H27.11.12~11.25 入院) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支援の方向性 | <長期目標> ・希望する高校進学に向け、基礎学力の定着を図る。 ・自己の体調に応じて他者に支援を依頼することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <必要な配慮・支援> ・服薬によって出血すると止まりにくいいため、打撲やけがのないように活動させるが、制限しすぎることがないようにする。 ・風邪等の感染症にかかると重症化しやすいため、うがいや手洗いの励行と流行している時期にはマスクを着用させる。 ・自覚症状が少ないため、制限を越えた運動をしている場合には教師が声をかけ制限する。 ・食事制限のある時期は、食事の内容や量について保護者と連絡をとる。 ・自分の良さを認めたり、他者に支援を依頼したりできるようにする。 ・体調が悪かったり、入院していたりしたことから生活の経験不足や学習の空白があることを意識して指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

以上の情報を関係機関と共有することに同意しました。

平成 年 月 日 保護者氏名 印

図2 個別の教育支援計画作成例（長崎県教育委員会（2017）より抜粋）

秘 個別の指導計画（前期）

| | | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|
| 学校名 | 〇〇中学校 | 学年 | 3年 | 氏名 | 大村 太郎 |
| 主学 な 習 実 上 態 ・ に 生 つ 活 い 上 て の | 得意なところ、好ましいところ | | 苦手なところ、改善したいところ | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 細かい作業が得意で、模型を作ることが得意である。 スポーツに関するニュースに詳しい。 学年相応の計算や漢字、英単語はできている。 本を読むことが好きである。 | | <ul style="list-style-type: none"> 自分の体調よりも、したいことの方が優先し、つい、制限を越えて活動してしまうことがある。 校内での荷物の運搬等、他者に頼むことが出来ず、一人で運搬することがある。 入院していた時期があるため、学習していない単元がある。特に、数学と英語が苦手である。 | | |

〈教科等について〉

| | |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 各教科等における配慮事項等 | <ul style="list-style-type: none"> 服薬によって出血すると止まりにくい場合、打撲やけがのないように活動させるが、制限しすぎることがないようにする。 自覚症状が少ないため、制限を越えた運動をしている場合には教師が声をかけをする。 自分の良さを認めたり、他者に支援を依頼したりできるようにする。 体調が悪かったり、入院していたりしたことから生活の経験不足や学習の空白があることを意識して指導する。 |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 教科等 | 目標 | 主な指導内容・配慮事項等 | 評価 | 気付き等 |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育課程 学びの場 | | | | |
| 自立活動 | <p>【年間目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の病状を理解し、体調管理を行う。 不安な気持ちを他者に伝えたり、必要に応じて他者に支援依頼をしたりする。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の病状を自覚し、決められた活動や食事の量を守ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己の病状（どのような病気が、自分はどういう状態か、気をつけなければいけないことは何か等）について知っていることを書かせることで、本人の自己理解の程度を把握する。 病状や生活上の配慮点等に関する資料を提示し、自身の病状に対する知識を深めさせる。 病状について本人にどのように伝えてあり、どこまで伝えてよいか保護者に確認をとっておく。 保健体育の健康管理や栄養等に関して指導する教科担任とも情報を共有し、効果的に学ぶことができるようにする。 毎日、体調や気を付けなければいけないことを自分で記録ノートに書き、体調の変化に気を付けるようにする。また、自由欄を設け、本人の不安な気持ちや考えていることなどが書けるようにしておく。 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 自分の病状や気を付けること等の理解はできているが、友達と一緒に活動しているときに、他の友達と同じように活動してしまうことがあった。体調を記録ノートに書かせることで意識を高める。 記録ノートの自由欄に、「他の友達と同じように活動できないときに友達からどのように見られるのか」「高校に進学できるのか」という不安を書いていることがあった。少しずつ、不安な気持ちを担任に伝えることができるようになってきている。今後も、記録ノートを介して、担任との交流を深め、不安な気持ちを解消できるようにしていきたい。また、交流学級の担任ともさらに連携を図り、交流学級の友達へも支援の依頼ができるようにしていきたい。 |
| 数学 中学3年 特別支援学級 | <ul style="list-style-type: none"> 当該学年に同じ。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科担任が指導する。 入院による未学習の内容を把握する。関連する内容の授業の前に、未学習の内容を学習してから、当該学年の内容が理解できるようにする。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 未学習の内容を学習した後、当該学年の内容を学習することで、スムーズに理解することができた。後期も、未学習の内容と関連する内容があるため、引き続き指導したい。 |
| 外国語 中学3年 特別支援学級 | <ul style="list-style-type: none"> 当該学年に同じ。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科担任が指導する。 入院による未学習の内容を把握する。関連する内容の授業の前に、未学習の内容を学習してから、当該学年の内容が理解できるようにする。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 未学習の内容を学習した後、当該学年の内容を学習することで、スムーズに理解することができた。 学習意欲が高く、習得状況も良好で、ほぼ未学習の内容を履修できたが、学習内容の定着のために後期も個別指導を行う。 |
| 保健体育 中学3年 交流学級 | <ul style="list-style-type: none"> 当該学年に同じ。 | <ul style="list-style-type: none"> 内容に関する一部の事項を取り扱わない。 体育分野では、100メートル走など、運動量の多い活動を行う場合は、タイムを計る等の活動を準備する。 体育祭前など、長時間に渡り外で学習する際には、適宜、休憩を取りながら参加する。 保健分野では、健康な生活と疾病の予防等の内容を学習する際は、個人情報に配慮しながら、自立活動との関連を考え、自己の生活管理に対する意識が高まるよう指導する。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 体育祭前に100メートル走を繰り返し行うことがあったが、ゴールテープやタイムを計る役割を担当し、友達を励ましながら参加していた。後期は、球技や持久走等、運動量が多い学習が多いため、参加する活動量を決め、少しでも他の生徒と同じように学習できるようにする。 保健分野の学習プリントの感想欄に、自己の健康に関することや健康の維持管理について前向きな感想が書かれており、意識を高めることができた。 |

図3 個別の指導計画作成例（長崎県教育委員会（2017）より抜粋）

ることが学校教育法施行規則第138条及び140条に示されている。特別支援学級に在籍する、または通常の学級に在籍して通級による指導を受ける当該児童生徒についても、支援者間連携で得た情報を生かして自立活動等の指導を展開して行くことが重要である。

4. おわりに

近年、通級による指導を受けていない通常の学級在籍の当該児童生徒に対しても、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、個の実態に応じた指導や支援を行うようになってきている。健康管理の必要な子供の中には、先述したアレルギー疾患のような、場合によっては即生命にかかわる事態に陥る可能性のある子供も在籍している。特別支援学校や小・中学校等の特別支援学級に在籍する子供だけではなく、通常の学級に在籍している健康管理が必要な子供についても、支援者間連携で指導・支援に必要な情報を個別の教育支援計画や個別の指導計画及び支援会議等の開催を通して共有し、事故のない安全・安心な学校生活を送り、学習上や生活上の困難を改善・克服し、個の実態に応じた適切な教育が受けられるようにしていくことが今後の課題といえる。

文献

国立特殊教育総合研究所 (2006)「個別の支援計画」の策定に関する実際研究 (平成16年度～平成17年度プロジェクト研究 (http://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/project<2023.1.5>))

公益財団法人日本学校保健会 (2019) 学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン<令和元年度改訂>.

三村秀雄 (2011)「個別の教育支援計画」の活用. 肢体不自由教育, 199, 2-3.

文部科学省 (2017a) 小学校学習指導要領.

文部科学省 (2017b) 中学校学習指導要領.

文部科学省 (2017c) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領.

文部科学省 (2021) 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～. ジアース教育新社.

長崎県教育委員会 (2017)「個別の教育支援計画」の作成Q&A～特別支援学級に在籍する児童生徒のために～.

([https://www.edu-c.news.ed.jp/web_contents/box/sienbox/H28/kobetsushien_toku/個別の教育支援計画Q&A\(特別支援学級\).pdf<2023.1.5>](https://www.edu-c.news.ed.jp/web_contents/box/sienbox/H28/kobetsushien_toku/個別の教育支援計画Q&A(特別支援学級).pdf<2023.1.5>))

特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 (2003) 今後の特別支援教育の在り方について (最終報告)

矢口明 (2011)「個別の教育支援計画」作成の意義とその活用. 肢体不自由教育, 199, 10-14.

本稿は、2020～2022年度科学研究費 (基盤研究B)「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築」(責任者: 大庭重治)の一環として、令和4年度JSPS科研費JP20H01706の助成を受けて執筆した。